

令和8年度

シ ラ バ ス

SYLLABUS

保育学科

1年生



健祥会学園
KENSHOKAI GAKUEN

目次

教養科目

英会話	1
健康科学	2
生涯スポーツ	3
国語表現	5
情報処理入門	6
キャリア形成入門.....	7

専門教育科目Ⅰ

教育原理	8
社会福祉	10
社会的養護Ⅰ	11
幼児の心理学	13
保育の計画と評価.....	15
保育内容総論	17
健康	19
幼児と人間関係	20
幼児と環境	21
幼児と言葉	22
幼児と造形表現	23
造形表現（指導法）	24
音楽（理論）	25
幼児と音楽表現Ⅰ	26
幼児と音楽表現Ⅱ.....	27
乳児保育Ⅰ	28
保育実習Ⅰ（保育所）	30
保育実習Ⅰ（施設）.....	31
保育実習事前事後指導Ⅰ（保育所）.....	32
保育実習事前事後指導Ⅰ（施設）.....	34

専門教育科目Ⅱ

教育方法論	35
教職概論	37
幼児の観察と理解Ⅰ	39
音楽表現（指導法）	41
劇あそび（指導法）	42

特設科目

まなび学Ⅰ	43
まなび学Ⅰ	44

【科目名】英会話

【教員名】板東 易代

【教員の実務経験】 有（高等学校教員の実務経験のある教員が演習を行う。）
無

【授業方法】 講義 演習 実習、実験、実技

【学科・学年・期】保育学科・1年・前期

【必／選・単位数(時間数)】必修・2単位（30時間）

【授業概要と目的】国際化が進むにつれ、日本語を母語としない保護者や園児と接する機会も増えつつあり、日本語以外の言語でのコミュニケーションが必要になってくる。中学、高校で単語や文法など英語の基礎は習ってきているので、この授業では英語の音に慣れることと英語と日本語の音の違いを知ることを中心に進める。また、挨拶や自己紹介、コミュニケーションの基本的な英語表現を学修する。英語と米語の違いやジェスチャーなどの表現方法の背景文化を含めた日本との違いについても学修する。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. 英語を聞き取ることと英語の正しい発音ができる。
2. 挨拶や日付、数字を英語で表現できる。
3. 英語で自己紹介ができる。
4. 英語の歌を楽しく歌い、歌詞を理解できる。
5. 英語と日本語の違いを文化的背景を含めて理解できる。

【教科書】土屋麻衣子:Happy English for Childcare. 金星堂, 2015

【参考書等】英和・和英辞書（紙、電子問わない）

【成績評価】 定期試験（70%） 小テスト 課題レポート（10%）

その他（課題発表 10% 英語の歌への取り組み 10%）

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	オリエンテーション Pre-unit	テキストの進め方、自己紹介、名札の作成、 英語の歌の進め方	板東 易代
2	Unit1	英語の歌 1/あいさつ、英語で自己紹介	〃
3	Unit2	英語の歌 1/園内の案内、道案内など	〃
4	Unit3	英語の歌 2/今日の調子を聞く、数字など	〃
5	Unit4	英語の歌 2/好きなものを聞く、what の表現	〃
6	Unit5	英語の歌 3/場所を表す表現など	〃
7	Unit6	英語の歌 3/人に何かするよう、しないように言う表現	〃
8	Unit7	英語の歌 4/ 保護者からの相談、食材の名前	〃
9	Unit8	英語の歌 4/ should、must、have to の表現	〃
10	Unit9	英語の歌 4/ 動詞の過去形を使った言い方など	〃
11	Unit10	英語の歌 5/ 園行事予定についての会話など	〃
12	Unit11	英語の歌 5/ Shall I～? 、Will you～?の表現など	〃
13	Unit12	英語の歌 5/ 病気やけがの症状を伝える表現など	〃
14	Unit13	英語の歌 6/ 電話応対に便利な表現など	〃
15	Unit14	英語の歌 6/ お礼の表現、お誕生日カードなど	〃

【授業時間外の学習】日本語で自己紹介、好きなもの、歌手、趣味が言えるようにしておくこと。普段から外国のニュース、情報を意識して知ること。予習及び復習には各2時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】音楽の時間ではないので、上手下手に関わらず英語の歌を楽しく歌えること。

【科目名】健康科学

【教員名】松浦 康

【教員の実務経験】 有

■無（理学療法士国家資格を有する教員が講義を行う。）

【授業方法】 ■講義 演習 実習、実験、実技

【学科・学年・期】保育学科・1年・前期

【必／選・単位数(時間数)】必修・1単位（15時間）

【授業概要と目的】学生は、健康づくりに関わる方法論としてのスポーツを知り、その多様性及び社会的役割や価値について学修する。健康スポーツの繋がりを理解することは自身の健康増進や、生涯の健康づくりの基礎をなす幼児期における適切な指導を行うために重要である。

【到達目標】学生は、スポーツの持つ特性や教育的意義について説明することができる。また、社会における客観的な健康の位置付けを理解し、自らの「健康観」を述べることができる。

【教科書】鐘ヶ江淳一:生涯スポーツ・健康科学. 近畿大学九州短期大学通信教育部, 2016.

【参考書等】適宜資料配付

【成績評価】 定期試験 小テスト ■課題レポート（60%） ■その他（提出物 40%）

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	スポーツの概念	障がい者を含めたスポーツの概念の変遷を踏まえた上で、現在のスポーツの意義や考え方を知り、自らのスポーツに対する考え方をまとめる。	松浦 康
2	社会生活の変化とスポーツ	「来るべき余暇社会」と「地域社会の再建」に対してスポーツはどのような機能を発揮することが期待されているかについて学ぶ。	〃
3	スポーツ参加の現状と課題①	スポーツ活動の現状を「学校スポーツ」「職場スポーツ」のいずれかを具体的場面でとらえ、自らの体験も踏まえて、その問題点について考える。	〃
4	スポーツ参加の現状と課題②	スポーツ活動の現状を「商業スポーツ」「地域スポーツ」のいずれかを具体的場面でとらえ、自らの体験も踏まえて、その問題点について考える。	〃
5	健康の概念	健康概念の変遷やWHOの健康の定義を踏まえた上で、自らの健康に対する考え方をまとめる。	〃
6	健康・体力と運動①	現代社会の健康阻害要因に対して、スポーツ・運動がどのような機能を発揮することが期待されているかを知る。また、障がい者が安全にスポーツを楽しむための用具の工夫や留意点について、実技を通して学ぶ。	〃
7	健康・体力と運動②	脳性麻痺等の障がいがある幼児の体力づくりの在り方について理解し、安全で楽しめるスポーツについて実技を交えて学ぶ。	〃
8	生活におけるトレーニング	運動処方における運動の条件（種類、強度、継続時間、頻度）についてまとめる。	〃

【授業時間外の学習】各回の内容を復習的に整理するとともに、次回の授業内容について教科書を読んで自分なりに考えておくこと（各2時間程度を要する）。

【履修条件・注意事項】講義には指定の教科書を持参すること。主体的・積極的に授業に取り組むこと。授業時に出された課題は提出期限を厳守すること。

【オフィスアワー】授業後の休み時間（1号館事務室又は本館事務室前）

【科目名】生涯スポーツ

【教員名】宮本 實、中西 広大、河野 磨、遠藤 恭弘、車いすバスケットボールチーム

【教員の実務経験】 有

■無（日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格を有し、種別・年齢層も幅広く指導を行っている。ゲートボールにおいても指導者及び審判資格を有しての長年の活動経験及び教育現場での指導経験を活かし、介護現場において実践的に役に立つ授業を実施する（宮本）。

健康運動士としての経験を有する教員が演習を行う（河野）。障害者スポーツの普及、指導、実践経験を有する教員が演習を行う（遠藤。）

【授業方法】 ■講義 ■演習 ■実習、実験、実技

【学科・学年・期】保育学科・1年・後期

【必／選・単位数(時間数)】必修・1単位（30時間）

【授業概要と目的】ゲートボールは健祥会の「会技」であり、スポーツとしてだけでなく規律を重んじ、人びとに接する時の接し方を含めた授業とする。地域の高齢者とゲートボール交流大会を行い話し合いの場を持つ。後半に幅広いスポーツを知るために、障がい者スポーツについての講義と実技を実施する。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. ゲートボールを通じて高齢者と会話する糸口を見出すことができる。
2. スポーツに限らず全てにおいて礼に始まり礼で終わる規律を理解できる。
3. ゲートボールでチームワーク・コミュニケーションの大切さを理解できる。
4. 私の就業経験を伝達することで実社会の規律を身につけることができる。
5. 集団競技や障がい者スポーツを知り、実践することによりチームワーク・コミュニケーションの大切さを理解する。
6. 障がい者スポーツの指導上の留意点と工夫を知る。

【教科書】適宜資料配付

【参考書等】公益財団法人日本ゲートボール連合発行：公式ゲートボール競技規則 審判実施要領 2015. DVD他

中村太一著：Q&A・上達ハンドブック①・②・③・④・⑤・理想の一手他

【成績評価】 ■定期試験（80%） 小テスト ■課題レポート（欠席者のみ） ■その他（実技20%）

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	ゲートボールとは	講義 ゲートボール競技のあらまし 実技 ビデオを観戦とマナーを知る（挨拶・握手・有難う）	宮本・中西
2	ルールの詳細	実技 ゲートボール競技とはどのような競技かをコートで実践する	〃
3	ルールの詳細	講義 ゲートボール競技のルール説明① 実技 実践でプレーをしながらコツを覚える①	〃
4	ルールの詳細	実技 実践でプレーをしながらコツを覚える②	〃
5	ルールの詳細	講義 ゲートボール競技のルール説明②と諸規定（ドーピング検査の説明含む） 実技 紅白に分かれて試合形式の流れを知る	〃
6	ルールの詳細	実技 審判員のジェスチャー・セレモニーの仕方を実践で覚える①	〃
7	問題集の解説と審判員の仕方	講義 ゲートボール想定問題集の解説及び審判の仕方(主審・副審・記録員) 実技 審判員のジェスチャー・セレモニーの仕方を実践で覚える②	〃
8	審判員の仕方	実技 審判員と競技者に分かれて審判の仕方および競技者のマナーの実践	〃
9	地域交流大会	実践 地域の方に教えてもらいながらマナーとゲームの面白さとチームのコミュニケーションを身につける①	〃
10	地域交流大会	実践 地域の方に教えてもらいながらマナーとゲームの面白さとチームの	〃

コミュニケーションを身につける①			
11	スポーツ紹介	講義 スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質について知る	河野 磨
12	スポーツ紹介	講義 全国障がい者スポーツ大会の概要について学ぶ	遠藤 恭弘
13	スポーツ紹介	講義 障がい者スポーツ推進の取組みについて知る	〃
14	障がい者との交流	演習 車いすバスケットボールを通して障がいのある人との交流を行う	後藤 信吾
15	障がい者との交流	演習 障車いすバスケットボールを通して障がいのある人との交流を行う	〃

【授業時間外の学習】 当該科目の重要性を十分理解し、講義内容を自分なりにノートにまとめること。予習及び復習を各2時間程度行うこと。

【履修条件・注意事項】 講義中は内容を理解することに努め、疑問点があれば積極的に質問をすること。私語や受講態度など講義中の姿勢については厳しく指導する。

【科目名】国語表現

【教員名】美馬 愛子

【教員の実務経験】有

■無（幼稚園教諭と保育士の実務経験のある教員が演習を行う。）

【授業方法】■講義 ■演習 実習、実験、実技

【学科・学年・期】保育学科・1年・前期

【必／選・単位数(時間数)】必修・1単位（15時間）

【授業概要と目的】コミュニケーションは互いの意思が正しく伝わることで成立する。そのために必要な、曖昧でなく誤解をされない表現、敬語など社会人としてふさわしい言葉遣い、話し言葉と書き言葉の使い分けなど、日本語の表現力を身につけることを目的とする。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. 主・述の関係、適切な助詞の使用、語順を意識して、正しい文章表現ができる。
2. 誤解を生むような曖昧な表現を使わずに文章表現ができる。
3. 話し言葉と書き言葉の使い分けができる。
4. 正しい接続語で文章をつなぐことができる。
5. 適切な敬語や慣用表現を使い、社会人としてふさわしい表現ができる。

【教科書】国語表現ナビ. 浜島書店

【参考書等】適宜資料等配付

【成績評価】■定期試験(70%) ■小テスト(10%) 提出課題レポート ■その他(演習課題 20%)

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	主語と述語の関係	日本語における主語と述語の関係を学習する。	美馬 愛子
2	助詞と語順	正しい助詞の使い方と、語順による伝わり方の違いを学習する。	〃
3	係り受け	正しい係り受け	〃
4	曖昧表現	誤解を生む曖昧表現にならない文章表現の方法について学ぶ。	〃
5	子どもとつながることばの力	話し言葉と書き言葉の区別をつけ、正しい書き言葉での文章表現を学ぶとともに、SNS で使われる短文の危険性について学習する。	〃
6	保育に生きる表現力 文章をつなぐ	接続後の持つ意味を理解し、正しい接続語を用いた文章をつなぎ方を学ぶ。	〃
7	保育現場で役立つ文章 敬語と慣用句	敬語の種類と使い方、表現方法と慣用表現を用いて、社会人としてふさわしい表現方法を学ぶ。	〃
8	総合演習	これまで学習した内容を踏まえて、文章を書くこと、話すことで情報を伝達することを実践する。	〃

【授業時間外の学習】本や新聞など文章を多く読むこと、文章を要約や手紙を書くなど文章を表現することを日常生活の中でできるだけ行うこと。常用漢字を使える（漢字能力検定2級程度）ように、普段から漢字の使用を意識すること。他の学生の妨害になる行為は厳禁。予習及び復習は各2時間程度行うこと。

【履修条件・注意事項】課題は原則その授業終了時に提出すること。

【オフィスアワー】月・水・金曜日 16:30～17:30（1号館事務室前）

【科目名】 情報処理入門

【教員名】 後藤 靖司

【教員の実務経験】 ■有（高等学校や大学にて情報教育経験のある教員がその経験を生かし、演習を行う。）

□無

【授業方法】 ■講義 ■演習 □実習、実験、実技

【学科・学年・期】 保育学科・1年・前期

【必／選・単位数(時間数)】 必修・2単位（30時間）

【授業概要と目的】 就職後に必ず必要となる、文字入力方法や表計算、プレゼンテーション資料作成と発表を Microsoft Office (Word, Excel, PowerPoint) の基本的な使い方を演習することで身に付けることを目的とする。

【到達目標】 学生は以下のことをすることができる。

1. Word を使ってビジネス文書やチラシ、報告書の作成ができる。
2. Excel を使って基本的な表の作成と Word との連携ができる。
3. PowerPoint を使ってプレゼンテーション資料を作り、相手に伝わる発表ができる。
4. PowerPoint で簡単なスライドショーの作成ができる。

【教科書】 なし

【参考書等】 配付資料

【成績評価】 □定期試験 ■小テスト（10%） ■課題レポート（20%） ■その他（演習課題 70%）

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	PC 操作の基本	電源の ON/OFF、マウスやキーボードの操作、データの保存、サーバーへの接続などの基本操作	後藤 靖司
2	インターネット	インターネットの仕組みやサービスについて学ぶ	〃
3	利便性と安全性	著作権や SNS と生成 AI の使い方と危険性を学ぶ	〃
4	Word の基本操作①	ローマ字入力とページ設定の方法、コピー、貼り付け、レイアウト変更などの基本操作演習と文字入力の速度アップ（タッチタイピング）演習	〃
5	Word の基本操作② (チラシ作成)	ワードアートや図・表を挿入し、チラシを作成する	〃
6	Excel の基本操作①	Excel の特徴理解、データ入力、関数を使った表計算の演習	〃
7	Excel の基本操作②	Excel で作成した表から適切なグラフを作成する	〃
8	Word と Excel の連携	Excel の表、グラフを Word に貼り連携させる総合演習と報告書の作成	〃
9	PowerPoint の基本操作①	PowerPoint でできることの確認と練習	〃
10	PowerPoint の基本操作②	スライド作成のコツとアニメーション、プレゼンテーション資料の作成演習	〃
11	PowerPoint の基本操作③	プレゼンテーション資料の作成演習	〃
12	PowerPoint の基本操作④	プレゼンテーション資料の作成演習	〃
13	プレゼンテーション①	作成した PowerPoint の資料を用いたプレゼンテーションの発表練習	〃
14	プレゼンテーション②	プレゼンテーション（発表）	〃
15	スライドショーの発表	プレゼンテーション資料（スライド）の自動化	〃

【授業時間外の学習】 O A 室等を利用してタッチタイピングの練習を望む。

【履修条件・注意事項】 講義時は集中して聞き、演習前の説明は指示に従い一緒に進めること。毎時間課題演習をして提出するので、時間内に終わるよう集中して取り組むこと。予習、復習（各 2 時間程度）をすること。他の学生の妨害になる行為は厳禁。

【科目名】キャリア形成入門

【教員名】美馬 愛子

【教員の実務経験】有

無（保育士としての実務経験のある教員が演習を行う。）

【授業方法】講義 演習 実習、実験、実技

【学科・学年・期】保育学科・1年・前期

【必/選・単位数(時間数)】必修・1単位（15時間）

【授業概要と目的】働くとはどういうことか、自身にとってどのような意味を持つかについて熟考し、目標実現に必要な事柄を明確にして職業人としてのキャリアデザインをする。指導者として様々な人とのコミュニケーションスキルやソーシャルスキルの基礎を学び、企業訪問時の注意点や履歴書の書き方、面接の受け答えなど、就職活動や社会に出る際に必要な礼儀やマナー、敬語を習得する。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. 労働の社会的意義及び自身にとっての価値について熟考した上で、自身の将来像に向かって何をすべきか明確な計画を立てられる。
2. 自分自身を客観的に分析でき、根拠に基づいた履歴書作成と自己PRができる。
3. 指導者として、様々な人とのコミュニケーションスキルやソーシャルスキルについて学び、就職面接に向けて時間管理や挨拶、敬語などの社会常識を身につけることができる。

【教科書】なし

【参考書等】適宜資料配付

【成績評価】定期試験 小テスト 課題レポート（20%）

その他（キャリアマップ提出30% 履歴書提出50%）

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	社会で働くとは	労働の社会的意義について考える。	美馬 愛子
2	労働の価値	自身にとっての「働く・就職する」について考える。	〃
3	キャリアデザイン (行動計画)	自身の将来の理想像実現のために必要な事柄を書き出し、キャリアデザイン各段階における具体的な行動計画を立てる。	〃
4	キャリアデザイン (キャリアマップ 完成)	自身のキャリアマップを完成させる。	〃
5	自己理解と自己分析	自分自身を客観的に分析し、自分がどのような思考傾向にあるかを知るとともにリフレーミングで短所を長所に変える。	〃
6	求人票の見方、履歴書作成	求人票の見方と履歴書作成上の注意点について学習する。	〃
7	履歴書作成	自己PRの書き方を学習し、実際の履歴書を作成する。	〃
8	就職面接について考える	指導者として、様々な人とのコミュニケーションスキルやソーシャルスキルの基礎を学び、就職面接について、必要な礼儀やマナー・敬語等を習得する。	〃

【授業時間外の学習】敬語や話し言葉と書き言葉の使い分けを普段から意識して行うことを望む。学んだことをしっかり復習する。予習及び復習には各2時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】常に集中して授業に臨むこと。他の学生の妨害になる行為は厳禁。自分自身のことなので、正直に自分に向き合う努力を要す。提出物はその授業内で完成させて提出すること。

【オフィスアワー】水曜日 16:30～17:30（1号館事務室前）

【科目名】教育原理

【教員名】園木 夏江

【教員の實務経験】 有 (保育士としての實務経験のある教員がその経験を生かし、講義を行う。) 無

【授業方法】 講義 演習 実習、実験、実技

【学科・学年・期】保育学科・1年・前期

【必/選・単位数(時間数)】必修・2単位 (30時間)

【授業概要と目的】学生は、教育の意義・目的、諸外国及び日本の教育思想と歴史の変遷を理解する。また、様々な教育実践と共に生涯学習社会における教育課題を理解し、保育・教育を考えるための視野を広く持てるようにする。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. 教育の意義、目的及び子ども家庭福祉等との関わりについて理解する。
2. 教育の思想と歴史の変遷について学び、教育に関する基礎的な理論について理解する。
3. 教育の制度について理解する。
4. 教育実践の様々な取り組みについて理解する。
5. 生涯学習社会における教育の現状と課題について理解する。

【教科書】垂見直樹:保育のための教育原理. ミネルヴァ書房, 2019.

【参考書等】適宜資料配付

【成績評価】 定期試験 (70%) 小テスト 課題レポート (30%) その他

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	教育とは何か	教育の意義・目的及び子ども家庭福祉等との関連性について、調べ学習を行い理解する。	園木 夏江
2	教育の思想と歴史の変遷	諸外国や日本の教育の思想と歴史、子ども観と教育観の編成について、調べ学習を行い理解する。	〃
3	教育の制度 教育の実践	教育制度の基礎、教育法規・教育行政の基礎、教育実践の基礎理論について、調べ学習を行い理解する。	〃
4	生涯学習社会における教育の現状と課題	生涯学習の概念と理念、地域社会における生涯学習の展開について、調べ学習を行い理解する。	〃
5	幼児教育思想の歴史	幼児教育思想の基盤となる子ども観について、歴史的な視点から考察を深める。	〃
6	教育制度の成立と幼児教育の展開	江戸時代の子どもの眼差しと歴史的基盤を知る。近代学校制度の成立に伴う幼稚園の制度的変遷と託児所の普及過程を理解する。	〃
7	諸外国における教育・保育	国際的な動向から、日本における乳幼児期の教育の特性を知る。	〃
8	教育の法規と制度の基礎	日本の学校・教育行政・乳幼児期の教育に関する制度の基礎を理解する。	〃
9	現代社会と生涯学習	生涯学習振興のための制度的基盤や施策の動向について理解を深める。	〃
10	教育の計画と評価	教育評価の基礎を理解する。	〃
11	連携による教育・保育	就学前と小学校との連携の基礎的な考えを理解する。	〃
12	教育の本質・意義・機能①	教育学の基礎知識を理解し、現代社会における教育の諸課題について考えまとめる。	〃
13	教育の本質・意義・機能②		〃

14	幼児期の教育の 基本原理とその 特徴①	現代社会を生きる子どもたちに必要な教育とは何か、という実践的な課題について考える。	〃
15	幼児期の教育の 基本原理とその 特徴②		〃

【授業時間外の学習】 予習及び復習は各2時間程度行うこと。配付資料はファイル等にまとめること。

【履修条件・注意事項】 主体的・積極的な授業への参加を心がけること。課題の提出期限を厳守すること。

【オフィスアワー】 授業後の休み時間及び昼休み（1号館事務室前）

【科目名】社会福祉

【教員名】上田 清人

【教員の実務経験】 有

無（社会福祉士資格を有する教員が講義を行う。）

【授業方法】 講義 演習 実習、実験、実技

【学科・学年・期】保育学科・1年・前期

【必／選・単位数(時間数)】必修・2単位（30時間）

【授業概要と目的】学生が、現代社会の社会福祉の状況を踏まえて、保育士・幼稚園教諭として、子どもとその家庭の支援ができるように、社会福祉の概要と基礎的な知識を学習する。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷が理解できる。
2. 社会福祉の制度と実施体系が理解できる。
3. 社会福祉における相談援助が理解できる。
4. 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みが理解できる。
5. 社会福祉の動向と課題について理解できる。

【教科書】鬼崎信好・本郷秀和：コメディカルのための社会福祉概論第5版. 講談社，2023.

【参考書等】

福祉小六法 2018. 中央法規，2018.

社会福祉用語辞典. 中央法規，2012.

【成績評価】 定期試験（60%） 小テスト 課題レポート（40%） その他

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	社会福祉とは	ガイダンス・社会福祉を語源から意味を考え、社会福祉とは何か広義、狭義からの理解、用語の整理をする（理念と概念）	上田 清人
2	社会福祉の歴史の変遷	日本の社会福祉の歴史の変遷を理解する	〃
3	社会福祉の動向と課題	社会保障制度と社会福祉を展開する組織	〃
4	社会福祉の制度と実施体系	社会福祉の制度と法体系や実施機関、それを担う専門職について理解する	〃
5	社会福祉における相談援助①	相談援助の理論、意義と機能について理解する	〃
6	社会福祉における相談援助②	相談援助の対象と過程について理解する	〃
7	社会福祉における相談援助③	相談援助の方法と技術について理解する	〃
8	社会保障制度	社会保障制度について理解する。	〃
9	利用者保護に関わる仕組み	情報提供と第三者評価および権利擁護と苦情解決について理解する	〃
10	子供福祉	少子化対策や子供にかかわる法制度、児童福祉関連施設について理解する。	〃
11	障害者福祉・低所得者福祉	障害者福祉の考え方等を理解する。障害者スポーツに関する施策。障害者の社会参加について理解する。貧困、生活保護制度等を理解する	〃
12	高齢者福祉と介護保険制度	高齢者福祉施策について、在宅福祉や地域福祉現状と課題について理解する。介護保険制度について理解する。	〃
13	ユニバーサルデザイン	グループワークを通じてユニバーサルデザインを学び、発表する。	〃
14	社会福祉の動向と課題	クライアントの多様性について理解する	〃
15	まとめ	授業のまとめ	〃

【授業時間外の学習】予習及び復習は、各2時間程度を行う。

【履修条件・注意事項】保育士・幼稚園教諭の資格を目標に、積極的な態度で授業に臨むこと。15回授業の中で、適宜レポート作成を求める（成績評価にも反映される）。

【オフィスアワー】授業後又は放課後～17：30（1号館事務室前）

【科目名】社会的養護 I

【教員名】山地 貴子

【教員の実務経験】 ■有 (保育士としての実務経験のある教員がその経験を生かし、講義を行う。) □無

【授業方法】 ■講義 □演習 □実習、実験、実技

【学科・学年・期】保育学科・1年・前期

【必/選・単位数(時間数)】必修・2単位 (30時間)

【授業概要と目的】学生が子育て困難と言われる現代社会の実情について知り、社会的養護とは何かを理解する。また、社会的養護の基本原則と制度、体制等についてグループ討議を通して理解を深め、社会的養護を担う職員の在り方について知ることを目的とする。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。
2. 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。
3. 社会的養護の制度や実施体系などについて理解する。
4. 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。
5. 社会的養護の現状と課題について理解する。

【教科書】児童育成協会監修:新・基本シリーズ⑥ 社会的養護 I 第2版. 中央法規出版, 2023.

【参考書等】適宜資料配付

【成績評価】 ■定期試験 (80%) □小テスト ■課題レポート (20%) □その他

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	社会的養護とは	オリエンテーション、社会的養護の概念について学ぶ。	山地 貴子
2	社会的養護の歴史的返還	欧米やわが国の社会的養護の歴史的変遷について学び、子ども観の変遷について理解する。	〃
3	子どもの人権擁護と社会的養護	子ども達への虐待の予防を前提に、子どもたちの権利擁護の観点から近年の動向を知る。	〃
4	社会的養護の基本原則	施設養護の基本理念と基本原則について学び、実践する方法について知る。	〃
5	保育士等の倫理と責務	社会的養護における保育士等の専門職が支援者に求められる倫理、専門職としての倫理について理解する。	〃
6	社会的養護の制度と法体制	社会的養護に関する制度や法体制を知り、社会情勢に応じて子どもの人権を守るための法整備がされていることを理解する。	〃
7	社会的養護の仕組みと実施体系	施設について理解し、児童養護施設の支援を中心に、施設養護のプロセスごとに行われる支援の要点を知る。	〃
8	社会的養護とファミリーソーシャルワーク	社会的養護の対象となる子どもやその家族への継続支援について理解する。	〃
9	社会的養護の対象と支援の在り方	施設入所に至るまでのソーシャルワークの概要を知り、社会的養護の施設等の目的や概要、課題について理解する。	〃
10	家庭養護と施設養護	家庭養護と施設養護の現状と課題、共通点と相違点、また里親養育について学ぶ。	〃
11	施設等に関わる専門職	現場で働く専門職や実施者の業務内容、専門性、連携する職種について学ぶ。	〃
12	社会的状況	諸外国における社会的養護の状況を参考に、社会的養護の存在意義について考える。	〃
13	施設等の運営管理	基本理念を実現していくための施設運営の内容やあり方について考える。また、長期に勤めるための環境づくりについてグループ討議し、考える。	〃

14	被措置児童等の虐待防止	児童福祉設等に入所する子どもへの虐待の現状と課題について学び、課題について理解する。また、事例を通して考える。	〃
15	現状と課題、まとめ	社会的養護と地域福祉の現状と課題について知る。本科目の振り返り及びまとめ	〃

【授業時間外の学習】 社会的養護に関するニュース事項に関心を持ち、自分なりの考えを整理しておくこと。十分な理解を得るために、予習及び復習（各2時間程度）を行うこと。

【履修条件・注意事項】 講義内容を理解することに注意を払うこと。積極的に自分の意見を述べ、疑問点があれば質問すること。

【オフィスアワー】 授業後の休み時間及び昼休み（1号館事務室前）

【科目名】 幼児の心理学

【教員名】 原田 美代子

【教員の実務経験】 有

■無（幼児教育の研究業績をもつ教員がその経験を生かし、保育・教育現場において役に立つ授業を実施する。）

【授業方法】 ■講義 演習 実習、実験、実技

【学科・学年・期】 保育学科・1年・後期

【必／選・単位数(時間数)】 必修・2単位 (30時間)

【授業概要と目的】 保育者の実践力に不可欠である子どもの発達過程に関する理解を深め、それに基づいて幼児の発達に応じた望ましい保育のあり方や保育の環境設定のあり方を考えることができる。援助や態度のあり方といった具体的な水準でそれらを実践するための知識を獲得する。

【到達目標】 学生は以下のことをすることができる。

1. 子どもの発達過程に関する基本的知識を理解し、説明できる。
2. その知識をもとにして、保育実践場面でどのように子ども関わるのが望ましいか、どのような保育の環境設定が理想的であるかについて考え、説明することができる。

【教科書】 原口喜充：実践に活かす保育の心理学. ミネルヴァ書房

【参考書等】 なし

【成績評価】 ■定期試験 (70%) 小テスト ■課題レポート (20%) ■その他 (授業内課題 10%)

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	発達を学ぶ意義	なぜ発達を学ぶのか「発達する」とはどういうことか理解する	原田 美代子
2	子どもの発達の概要①	おおむね6か月未満の発達特徴について、心理学の観点を踏まえて理解する 歩行と発達・指差しとコミュニケーション	〃
3	子どもの発達の概要②	おおむね1歳3か月までの発達特徴について、心理学の観点を踏まえて理解する 象徴機能の発達・自我の芽生えと自己有能感	〃
4	子どもの発達の概要③	おおむね2歳の発達特徴について、心理学の観点を踏まえて理解する 言葉の発達・フロイトの発達理論	〃
5	子どもの発達の概要④	おおむね3歳の発達特徴について、心理学の観点を踏まえて理解する ピアジェの発達理論・社会的学習理論	〃
6	子どもの発達の概要⑤	おおむね4歳の発達特徴について、心理学の観点を踏まえて理解する 自己効力感・自己統制	〃
7	子どもの発達の概要⑥	おおむね5歳の発達特徴について、心理学の観点を踏まえて理解する① 道徳性の育ち・グループダイナミズム	〃
8	子どもの発達の概要⑦	おおむね6歳の発達特徴について、心理学の観点を踏まえて理解する② 社会的アイデンティティ理論	〃
9	子どもの発達の概要⑧	おおむね6歳の発達特徴について、心理学の観点を踏まえて理解する① 心の理論	〃
10	子どもの発達の概要⑨	おおむね6歳の発達特徴について、心理学の観点を踏まえて理解する② 知能検査	〃
11	動機付けとやる気①	動機付け理論を通して、やる気を高める保育について考する① 動機付け理論	〃
12	動機付けとやる気②	動機付け理論を通して、やる気を高める保育について考する② 自己決定理論・原因帰属	〃

13	評価と認知の歪み	評価と幼児の心理学について理解する	〃
14	乳幼児期の学びに関わる理論	子どもの特性理解に関する心理学の理論について	〃
15	まとめ	これまで学んだ理論について振り返り，整理する	〃

【授業時間外の学習】 各授業日前にテキストの該当範囲を読み、内容をよく理解しておくこと。予習及び復習は各2時間程度行うこと。

【履修条件・注意事項】 3分の1以上欠席した受講生には単位を認定しない。

【科目名】保育の計画と評価

【教員名】山地 貴子

【教員の実務経験】 ■有（保育士としての実務経験のある教員がその経験を生かし、講義を行う。）
□無

【授業方法】 ■講義 ■演習 □実習、実験、実技

【学科・学年・期】保育学科・1年・後期

【必／選・単位数(時間数)】必修・2単位（30時間）

【授業概要と目的】全体的な計画と教育課程は、乳幼児が園で過ごす時間の全体をデザインするものであり、幼児理解や保育の計画、実践の反省や評価の手がかりとなるものである。学生が幼稚園教育要領・保育所保育指針を中心にその基礎的理念について理解を進め、具体的な編成、指導計画を通して実践力を身につけることを目的とする。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. 保育の内容の充実と質の向上に資する計画及び評価について理解する。
2. 全体的な計画と教育課程の目的や意義を学び、全体的な計画と指導計画の作成について、その意義と方法を理解する。
3. 子どもの理解に基づく計画、実践、省察・評価、改善の過程についてその全体構造を捉え、理解する。

【教科書】岸井勇雄・横山文樹:あたらしい幼児教育課程総論第二版. 同文書院, 2021.

【参考書等】

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説, 2017.
適宜資料配付

【成績評価】 ■定期試験（50%） □小テスト ■課題レポート（40%） ■その他（提出物10%）

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	本科目で学ぶこと	オリエンテーション、幼児期の特質について理解する。	山地 貴子
2	全体的な計画と教育課程の意義と方向	全体的な計画と評価と教育課程総論で学ぶことは何かを見通す。	〃
3	指針と要領の改訂のポイント	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領改訂の基本的なポイントについて理解する。	〃
4	幼稚園・保育所・認定こども園	幼稚園・保育所・認定こども園の基本について学ぶ。	〃
5	全体的な計画・教育課程の基準	全体的な計画・教育課程に関する法律や基準の変遷について学ぶ。	〃
6	基礎となる幼児の姿、様々な保育について	幼児期にふさわしい生活の展開や「遊び」や「楽しさ」のとらえ方について理解する。	〃
7	幼児教育課程の基本	レッジョ・アプローチ等の動画を視聴し、様々な保育の計画と評価の仕方について学び、視野を広げる。	〃
8	目的・目標・ねらいの意味	目標と計画の基本的な考え方について理解し、それぞれの保育観に合った保育理念・保育目標をグループワークで検討する。	〃
9	全体的な計画・教育課程の編成	全体的な計画、教育課程の編成と指導計画の作成の手順やその意義について理解する。	〃
10	全体的な計画・教育課程の作成	保育理念・保育目標に沿った全体的な計画又は教育課程を作成し、作成時の配慮点などを学ぶ。	〃
11	年間指導計画の作成	年間指導計画をグループワークし、作成時の配慮点などを学ぶ。	〃
12	月間指導計画の作成	短期指導計画をグループワークし、作成時の配慮点などを学ぶ。	〃
13	日案の作成	指導計画（日案）を作成し、作成時の配慮点などを学ぶ。	〃

14	保育の質の向上に向けて	保育の質の向上に向けた改善の取り組みについて学ぶ。	〃
15	小学校との連携と接続 まとめ	特別な配慮を必要な子どもに対する配慮点等を含め、小学校以降の生活を見通した保育及び保幼小の連携等について学ぶ。本科目のまとめを行う。	〃

【授業時間外の学習】 受講後に振り返り、授業内容を理解すること。予習及び復習は各2時間程度行うこと。

【履修条件・注意事項】 協働作業時は積極的に参加すること。疑問点があれば、積極的に質問をすること。

【オフィスアワー】 授業終了後の休み時間及び昼休み時間（1号館事務室前）

【科目名】保育内容総論

【教員名】山地 貴子

【教員の実務経験】■有（保育士として実務経験のある教員がその経験を生かし、演習を行う。）
□無

【授業方法】■講義 ■演習 □実習、実験、実技

【学科・学年・期】保育学科・1年・前期

【必／選・単位数(時間数)】必修・2単位（30時間）

【授業概要と目的】各領域を関連付けて総合的に保育内容を学び、保育所保育指針に基づく保育の全体構造と保育内容、保育の基本を踏まえた保育内容の展開（保育の基本的な考え方）、保育の多様な展開について理解する。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. 保育所保育指針の基本を理解し、保育内容を総合的に捉える。
2. 子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景や環境を理解する。
3. 保育内容の基本的な考え方を子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程につなげて理解する。

【教科書】厚生労働省：保育所保育指針．フレーベル館，2017．

【参考書等】

阿部和子他：改訂 保育内容総論－保育の構造と実践の探究－．萌文書林，2019．

文部科学省：幼稚園教育要領．フレーベル館，2017．

内閣府：幼保連携型認定こども園教育・保育要領．フレーベル館，2017．

適宜資料配付

【成績評価】□定期試験 ■小テスト（80％） □課題レポート ■その他（指導案10％ 実践10％）

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	オリエンテーション 保育の基底	オリエンテーション 子どもと保育者との基本的な関わりについて学ぶ。	山地 貴子
2	保育の全体構造	保育の全体構造を知り、保育所保育指針等と保育内容のつながりを学ぶ。	〃
3	保育内容の歴史的変遷	保育所保育指針の歴史的変遷等を取り上げ、現場に従事する保育者に求められる保育内容の基準について学ぶ。	〃
4	保育内容の理解	幼稚園・保育所・認定こども園の一日を理解し、保育内容を捉える。	〃
5	保育内容の展開①	養護と教育の一体性及び主体性を尊重する保育について、事例を通して学ぶ。	〃
6	保育内容の展開②	環境を通して行う保育、生活や遊びによる総合的な保育について、事例を通して学ぶ。	〃
7	乳児保育	0歳児の特徴や生活について事例を通して学び、子どもの育ちを読み取る。	〃
8	1歳～3歳未満児の保育	1歳～3歳未満児の特徴や生活について事例を通して学び、子どもの育ちを読み取る。	〃
9	3歳以上児の保育	3歳以上児の特徴や生活について事例を通して学び、子どもの育ちを読み取る。	〃
10	子どもの理解と計画	保育における観察と記録、保育の実践・評価と省察、カリキュラムマネジメントまでの流れを知る。	〃
11	子どもの育ちを支えるための連携	子どもを育む家庭への支援について、地域や関係する他機関との連携について、その意義や方法等を学ぶ。	〃
12	指導計画の作成	今までの学びを理解した上で、グループワークでそれぞれのテーマに合わせた指導計画を作成する。	〃

13	指導計画の実践①	作成した指導計画を実践し、意見交換をすることで評価と省察について理解する。	〃
14	指導計画の実践②		〃
15	小テスト、まとめ	本科目の確認テストを行い、習熟度を確認する。	〃

【授業時間外の学習】 授業の内容を発展させ、自分で課題を持って学習したり、活動したりすること。予習及び復習は、各2時間程度行うこと。

【履修条件・注意事項】 講義内容を理解することに努め、疑問点があれば積極的に質問する。専門職を志すものとして、自覚を持って授業に臨むこと。

【オフィスアワー】 授業終了後又は休み時間（1号館事務室前）

【科目名】健康

【教員名】友成 健悟、森下 照大

【教員の実務経験】有

■無（幼稚園教諭・保育士としての実務経験のある教員（友成）と障害のある児童への援助経験がある教員（森下）がその経験を生かし、講義と演習を行う。）

【授業方法】■講義 ■演習 実習、実験、実技

【学科・学年・期】保育学科・1年・前期

【必／選・単位数(時間数)】必修・1単位（15時間）

【授業概要と目的】学生は、健康の定義や管理等を理解し、子どもや自らの健康を保持・増進するための基本的な知識を学ぶ。また、保育内容の領域「健康」について、子どもに対する理解を深めながら、保育の内容を具体的に理解する。保育の内容の視点及び領域を踏まえて、子どもが生活や遊びにおいて体験していることを捉えるとともに、保育に当たって保育士が留意、配慮すべき事項を確認する。必要に応じて適宜話し合い活動等を取り入れ、実践的な理解の習得や主体的な態度の育成にもつなげていくことを目的とする。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. 就学前段階の運動遊びの指導・援助
2. 基本的な生活習慣の形成及びその援助
3. 健康、安全に関する保育活動

【教科書】なし

【参考書等】

文部科学省：幼稚園教育要領。フレーベル館，2017.

厚生労働省：保育所保育指針。フレーベル館，2017.

内閣府・文部科学省・厚生労働省：幼保連携型認定こども園教育・保育要領，フレーベル館，2017. 適宜資料配付

【成績評価】定期試験 小テスト ■課題レポート（100%） その他

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	健康とは①	健康の定義や管理、維持等について理解する。 （※簡単な身体機能の評価を实践する。）	森下 照大
2	健康とは②	健康の保持・増進の方法について理解する。 （※簡単な健康維持・増進の方法を实践する。）	〃
3	領域「健康」とは①	満1歳以上満3歳未満の園児の保育に関するねらい及び内容について理解する。	友成 健悟
4	領域「健康」とは②	満3歳以上の園児の教育や保育に関するねらい及び内容について理解する。	〃
5	園生活と生活習慣	「基本的な生活習慣」を身につけるための保育者の援助について、事例を通して考える。	〃
6	子どもの事故と安全管理	チャイルドビジョンを作成・体験し、子どもの発達と事故の関係性を体感的に学ぶ。	〃
7	領域「健康」①	体を動かす楽しさや気持ちよさを体験し、領域「健康」について考える。	〃
8	領域「健康」②	体を動かす楽しさを味わい、多様な動きを経験する中で、体の動きを調整することを学ぶ。	〃

【授業時間外の学習】予習及び復習は、各2時間程度行うこと。日々の新聞やニュース等を通して幅広く健康に関して興味を持ち、自身の健康や安全に心がけること。

【履修条件・注意事項】主体的・積極的な授業への参加を心がけること。課題の提出期限を厳守すること。

【オフィスアワー】授業後の休み時間及び昼休み（1号館事務室前）

【科目名】 幼児と人間関係

【教員名】 園木 夏江

【教員の実務経験】 ■有（保育士としての実務経験のある教員がその経験を生かし、講義と演習を行う。）

□無

【授業方法】 ■講義 ■演習 □実習、実験、実技

【学科・学年・期】 保育学科・1年・後期

【必／選・単位数(時間数)】 必修・1単位（15時間）

【授業概要】 学生は、保育内容の領域「人間関係」について、子どもに対する理解を深めながら、保育の内容を具体的に理解する。保育の内容の視点及び領域を踏まえて、子どもが生活や遊びにおいて体験していることを捉えるとともに、保育にあたって保育士が留意、配慮すべき事項を理解する。子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら、環境の構成、教材や遊具等の活用と工夫、保育の過程の実際について理解することを目的とする。

【到達目標】 学生は以下のことをすることができる。

1. 領域「人間関係」のねらいと保育の内容について理解できる。
2. 保育における子どもの生活や遊びを総合的に捉え、保育を展開していくための方法や技術、子どもの実態や状況に即した援助や関わりについて、具体的に学ぶことができる。

【教科書】 金俊華：幼児と人間関係. 同文書院, 2021.

【参考書等】 適宜資料配付

【成績評価】 ■定期試験（80%） □小テスト ■課題レポート（10%） ■その他（教科書提出 10%）

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	領域「人間関係」の社会的背景	幼児期における家庭と地域社会の重要性を理解して、その時代的変遷を知る。	園木 夏江
2	子どもの発達と人間関係	乳幼児期の発達過程について、主要な理論を理解する。	〃
3	領域「人間関係」のねらいと内容	幼児教育における「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について知る。	〃
4	保育者のかかわり方と集団づくり	集団保育における保育者の適切な働きかけについて理解する。幼児の発達段階における「集団遊び」の種類を学び、保育者の適切なかかわりを知る。	〃
5	子どもとのかかわりを通した幼児理解と評価	子どもとのかかわりを通した幼児理解と、保育者の適切な行動や態度について考えを深める。	〃
6	特別な支援を必要とする子どもの援助	知的障害と発達障害について、基礎的な知識を習得する。また、支援を必要とする子どもなどの状況と保育支援について考えを深める。	〃
7	子どもの家庭支援の重要性	現代の子育て家庭が抱える課題をとらえ、子どもの育ちへの影響について理解する。	〃
8	幼児教育における多文化共生	グローバル化にともなう新たな国際問題や経済的側面、環境の変化などを知る。	〃

【授業時間外の学習】 予習及び復習は、各2時間程度行うこと。配付資料はファイル等にまとめること。

【履修条件・注意事項】 主体的・積極的な授業への参加を心がけること。話し合い活動等に積極的に参加すること。課題の提出期限を厳守すること。

【オフィスアワー】 授業後の休み時間及び昼休み（1号館事務室前）

【科目名】 幼児と環境

【教員名】 山地 貴子

【教員の実務経験】 ■有（保育士としての実務経験のある教員がその経験を生かし、演習を行う。）
□無

【授業方法】 ■講義 ■演習 □実習、実験、実技

【学科・学年・期】 保育学科・1年・前期

【必／選・単位数(時間数)】 必修・1単位（15時間）

【授業概要と目的】 乳幼児は周囲の様々な環境に関わることを通して、自らの生活や遊びを広げ深めながら育つものである。保育者は、乳幼児がより豊かな体験ができるように、園内外の自然や身近なもの、社会的な出来事や行事などを含めた「環境」を自ら設定して実践的に保育する力が必要である。そのため、学生が、乳幼児が育つ過程において関わる様々な「環境」について学ぶことを目的とする。

【到達目標】 学生は、以下のことをすることができる。

1. 乳幼児が関わる自然環境、身近な環境、社会的環境について理解する。
2. 乳幼児が自らの生活や遊びを広げ、深められる保育を計画する力を身に付ける。
3. 保育現場で活用できる環境構成を考え、実践する。

【教科書】

文部科学省:幼稚園教育要領. フレーベル館, 2017.

内閣府・文部科学省・厚生労働省:幼保連携型認定こども園教育・保育要領. フレーベル館, 2017.

厚生労働省:保育所保育指針. フレーベル館, 2017.

【参考書等】

久保健太他:新しい保育講座⑨保育内容「環境」. ミネルヴァ書房, 2022.

適宜資料配付

【成績評価】 □定期試験 ■小テスト（50%） ■課題レポート（20%）
■その他（指導案・実践20% 提出物10%）

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	保育と領域「環境」とは	オリエンテーション 教育・保育における「環境」とは何か、広い意味でのとらえ方を理解する。領域「環境」のねらいや内容について知る。	山地 貴子
2	自然と「環境」（栽培）	乳幼児が自然に触れられる「環境」として、栽培活動について調べ、栽培計画を作成する。	〃
3	栽培活動	栽培計画に沿って、栽培活動の準備を行う。	〃
4	自然と「環境」（飼育）	乳幼児が自然に触れられる「環境」として、飼育活動についてグループで調べ、まとめる。	〃
5	子どもに合わせた環境設定	対象児の発達特性や興味関心を踏まえた保育環境についてグループ討議をし、指導案を作成する。	〃
6	保育実践	設定した環境構成を活用し、幼児と関わる。	〃
7	保育実践振り返り	設定した環境構成を活用し、幼児と関わる。 実践後、環境設定や関わりを振り返り、改善点について考える。	〃
8	まとめ	確認テストを通して本科目のまとめを行う。	〃

【授業時間外の学習】 授業の予習と復習（各2時間程度）を行い、課題は必ず期日までに提出すること。

【履修条件・注意事項】 ハサミ等の製作に必要な物は、各自準備をする。環境構成に必要な教材は学校で準備するが、段ボール等の廃材は各グループで準備する。

【オフィスアワー】 授業後の休憩時間及び昼休み時間（1号館事務室前）

【科目名】 幼児と言葉

【教員名】 園木 夏江

【教員の実務経験】 ■有 (保育士としての実務経験のある教員がその経験を生かし、講義と演習を行う。)
□無

【授業方法】 ■講義 ■演習 □実習、実験、実技

【学科・学年・期】 保育学科・1年・前期

【必／選・単位数(時間数)】 必修・1単位 (15時間)

【授業概要と目的】 学生は、保育内容の領域「言葉」の視点から、子どもに対する理解を深めながら、保育の内容について具体的に理解できる。保育の内容の視点及び領域を踏まえて、子どもが生活や遊びにおいて体験していることを捉えるとともに、保育士が留意、配慮すべき事項を理解する。子どもの発達過程に即して保育を実践し、環境の構成、教材や遊具等の活用と工夫、保育の過程の実際について理解する。また、必要に応じて適宜話し合い活動等を取り入れ、主体的な態度の育成にもつなげていくことを目的とする。

【到達目標】 学生は以下のことをすることができる。

1. 領域「言葉」のねらいと保育の内容について理解できる。
2. 子どもに対する理解を深めながら、保育における子どもの生活や遊びを総合的に捉え、保育を展開していくための方法や技術、子どもの実態や状況に即した援助や関わりについて、具体的に学ぶことができる。

【教科書】 皆川昌：幼児と言葉. 近畿大学九州短期大学, 2024

【参考書等】 田上貞一郎：保育内容指導法「言葉」. 萌文書林, 2022

【成績評価】 □定期試験 ■小テスト (50%) □課題レポート
■その他 (読み聞かせ 10% 発表 20% 振り返りシート 20%)

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	保育者のことば	人間にとって言葉がどのような働きをしているのか、また子どもの思いを受け止めた上で「どのような言葉をかけるのか」「どのようにかかわるのか」保育者としての役割を考える。	園木 夏江
2	子どものことば	胎児期から幼児期までのことばの発達の道筋とことばの育ちを支える環境の重要性について学ぶ。	〃
3	ことば遊び	子どもが喜んで遊びながらことばを身に付けることができるような内容や方法について探る。	〃
4	絵本の特性	絵本の特性や読み聞かせをする時の留意点を理解し、保育者として子どもとの関わり方について考える。	〃
5	絵本の読み合い	絵本の読み合いを行い、表現や言葉等、基礎的な知識を身に付け保育者として子どもとの関わり方について具体的な実践方法を検討する。	〃
6	児童文化財を通じた援助とかかわり	子どもの活動を総合的に考え、児童文化財をどのように保育の中に取り入れ活用するのか実践的に学ぶ。	〃
7	保育者としての援助とかかわり	保育実践は、保育者として自らが主体的に行動し、子どもへの援助やかかわりを実践的に学ぶ。	〃
8	小テスト・まとめ	小テストを実施し、学んだことを確認する。	〃

【授業時間外の学習】 予習及び復習は、各2時間程度行うこと。配付資料はファイル等にまとめること。

【履修条件・注意事項】 主体的・積極的な授業への参加を心がけること。話し合い活動等に積極的に参加すること。課題の提出期限を厳守すること。子どもとの関わりについては、必ず注意事項を確認すること。

【オフィスアワー】 授業後の休み時間及び昼休み (1号館事務室前)

【科目名】 幼児と造形表現

【教員名】 友成 健悟

【教員の実務経験】 ■有（保育教諭として実務経験のある教員がその経験を生かし、演習を行う。）
□無

【授業方法】 □講義 ■演習 ■実習、実験、実技

【学科・学年・期】 保育学科・1年・前期

【必／選・単位数(時間数)】 必修・1単位（15時間）

【授業概要と目的】 学生が造形の基礎となる平面・立体の作品制作を通して、幼児の造形活動への理解を深めること、また造形の基礎を学び、保育の現場で活かせる実践力を身につけることを目的とする。

【到達目標】 学生は以下のことをすることができる。

1. 制作活動を通して、創造性や表現力、作品鑑賞を楽しく感性豊かに学び、幼児教育における造形表現の基礎知識を習得する。
2. 自分自身で作品を完成させ、実践の現場で（実習時に）披露する。

【教科書】 なし

【参考書等】 適宜資料配付

【成績評価】 □定期試験 □小テスト □課題レポート
■その他（課題作品(カード・軍手人形など) 80% 発表 20%)

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	子どもにとっての表現とは	オリエンテーションを行い、子どもの様々な表現活動について考えていく。実際に紙や製作用具を使って自由に表現する。	友成 健悟
2	子どもの造形表現を学ぶ (絵の世界)	子どもを取り巻く生活環境、自然環境の現状を考える。 絵の歴史、子どもの視覚世界、子どもの独特な画法を知る。	〃
3	制作活動 (絵を引き立てる展示)	好きな絵を選び、その絵を引き立てる展示の工夫を自由にする(自己紹介カード作り)。折紙や布地など使って装飾を加え、作品を演出する力を養う。	〃
4	制作活動 (新聞紙から発想)	新聞紙からいろいろ発想をしてみる。 新聞ドームを作る。	〃
5	制作活動 (サンドアート)	自然物(砂、泥、水)の特性を知り、子どもの視点や発想について考えていく。 サンドアートで自由な表現をする。	〃
6	軍手人形を製作①	各自それぞれ、保育現場(実習)で活用できる“軍手人形”を製作する。	〃
7	軍手人形を製作②		〃
8	発表・まとめ	各自作品(軍手人形)を発表し、授業のまとめを行う。	〃

【授業時間外の学習】 課題作品は必ず期日までに完成させ提出すること。予習及び復習は、各2時間程度行うこと。

【履修条件・注意事項】 画用紙・粘土等は学校で準備するが、軍手人形製作に必要な材料は各自で準備する。

【オフィスアワー】 授業後の休み時間及び昼休み（1号館事務室前）

【科目名】造形表現（指導法）

【教員名】友成 健悟

【教員の実務経験】■有（保育教諭として実務経験のある教員がその経験を生かし、演習を行う。）
□無

【授業方法】□講義 ■演習 ■実習、実験、実技

【学科・学年・期】保育学科・1年・後期

【必／選・単位数(時間数)】必修・2単位（30時間）

【授業概要と目的】学生は、幼児の豊かな感性を養うために、乳幼児の身体的発達と幼児画の発達過程の特徴について理解し、発達に応じた援助の必要性を学び、基礎知識と指導法を身につけることを目的とする。

【到達目標】学生は、乳幼児・児童の造形表現の発達段階、乳幼児・児童の身体的発達の特徴について理解を深め、レポートにまとめることができる。また、さまざまな制作活動を通して表現技法を身につけることができる。

【教科書】岩男順：造形表現（指導法）テキスト。近畿大学九州短期大学通信教育部，2005。

【参考書等】適宜資料配付

【成績評価】□定期試験 □小テスト ■課題レポート（50%） ■その他（色彩基礎演習作品 50%）

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	造形表現について	乳幼児・児童の造形表現の発達段階（0～18歳まで）について学ぶ。また、身体的発達の特徴（各年齢ごと）について知る。	友成 健悟
2	課題①造形表現の発達と身体的発達（レポート作成）	造形表現の発達段階と身体的発達の特徴の一覧表を作成する。	〃
3			〃
4	課題②美術表現技法（レポート作成）	レポート設題集①～⑯までの幼児教育における、美術表現技法についてレポートにまとめる。	〃
5		グループで②～⑬の技法についてパワーポイントにまとめる。※3～4人のグループになり、グループで3つの技法をそれぞれ選択し、解説と方法（やり方）等を調べ、実践できるようにする。	〃
6	美術表現技法制作活動①	・幼児教育における美術表現技法を学ぶ。 ・各グループ調べた技法について発表し、実践していく。	〃
7	制作活動②	②batik ③sputtering ④stencil ⑤roller printing	〃
8	制作活動③	⑥frottage ⑦string design ⑧decalcomanie	〃
9	制作活動④	⑨dripping ⑩marbling ⑪stamping ⑫rolling of type	〃
10	制作活動⑤	⑬scratch	〃
11	制作活動⑥	※①⑭⑮⑯の技法については、写真や実際の作品を見ながら順に解説を聞き、美術表現技法についての理解を深める。 実践後、振り返りを行う。	〃
12			〃
13	設題③色の輪制作	色の4原色と白と黒を使用し、色の輪を2点制作する。	〃
14			〃
15	まとめ・振り返り	これまでの学びをまとめ、授業を振り返る。	〃

【授業時間外の学習】予習及び復習は、各2時間程度行うこと。課題レポートは必ず期日までに提出すること。

【履修条件・注意事項】画用紙・粘土・彩液等は学校で準備するが、その他必要な制作材料は各自で準備する。（絵の具・水入れ・筆・色鉛筆・定規・のり・はさみ・カッター等は各自で準備する）

【オフィスアワー】授業後の休み時間及び昼休み（1号館事務室前）

【科目名】音楽（理論）

【教員名】大戸井 啓子

【教員の実務経験】■有（未就学児個人指導、障がい児者指導、施設等の音楽療法、他大学の学生指導等の実務経験を生かし、講義・実技演習を行う。）

□無

【授業方法】■講義 ■演習 ■実習、実験、実技

【学科・学年・期】保育学科・1年・前期

【必／選・単位数(時間数)】必修・1単位（15時間）

【授業概要と目的】学生が、音楽の基礎知識を学び、読譜力を習得する。基礎知識は必要最低限とし、保育・教育現場で良い音楽を演奏するために確実に身につける。保育者としての技術能力を高めることを目指す。

【到達目標】学生がソルフェージュ能力を高め、楽典（理論）を習得する。読譜力が向上することでピアノを正確に弾き、発声良く豊かな声で正確に歌うことを目標とする。

【教科書】

平松愛子：音楽ピアノ教本．近畿大学九州短期大学，2020．

久世安俊：音楽声楽教本，近畿大学九州短期大学，2020．


小林美実：こどもの歌 200．チャイルド本社，2015．

板東貴余子：週に一度のおんがくワーク（上・下）ドレミ楽譜出版，1991．

【参考書等】準備した楽譜・資料、適宜プリントを配付する。

【成績評価】■定期試験（90%） □小テスト □課題レポート ■その他（楽典課題提出 10%）

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名	
1	音楽の基礎①	楽譜・音符休符の種類や長さ・階名読みの練習（ ) 配布資料やワーク使用により確実に習得する。	大戸井啓子 復習のため 毎時復習小テストを行い、 時間外学習課題を行う	
2	音楽の基礎②	上記復習と拍子リズムを奏でる。		〃
3	読譜力を養う	スラー・タイ、縦線等		〃
4	読譜力と楽語の基礎（音程）	ソルフェージュ・階名読みで歌う。 音程を確実に正しく子どもの歌を正しく歌い、 ピアノに挑戦する。		〃
5	基礎知識 コード音	楽語・強弱記号の復習。 加線・リピート記号、音名・コード音		〃
6	音階基礎	音名・コード音復習 音階の種類		〃
7	総復習	理論総復習①		〃
8	試験へのアドバイス	理論総復習②		〃

【授業時間外の学習】提示された課題やワークを行う。課題をすることで授業の復習となり、到達していない課題、不明点を認識する。次回行う課題を予習する。（予習、復習は各2時間程度とする。）学内設備を活用し、技術向上の努力をする。

【履修条件・注意事項】受講にあたっての必需品の確認と時間を明示する。配布資料・配布楽譜はファイルに入れ管理する。実技練習中は取り組み態度を厳しく指導。楽譜等の必需品は必ず持参し、他人の物を借りないこと。

【科目名】 幼児と音楽表現 I

【教員名】 大戸井 啓子、美馬 愛子

【教員の実務経験】 ■有 (未就学児個人指導、障がい児者指導、施設等の音楽療法、他大学の学生指導等の実務経験のある教員(大戸井)と保育士としての実務経験のある教員(美馬)がその経験を生かし、講義と実技演習を行う。)

□無

【授業方法】 ■講義 ■演習 ■実習、実験、実技

【学科・学年・期】 保育学科・1年・前期

【必/選・単位数(時間数)】 必修・1単位 (15時間)

【授業概要と目的】 学生は幼児の豊かな想像力や表現力を引き出し伸ばすために、保育者自身自ら歌う楽しさ喜びを感じ、必要なピアノ奏法の基礎技術を段階的に習得する。

【到達目標】 学生は以下のことをすることができる。

1. 保育者としてピアノの基礎能力を習得し、演奏技術の向上を目指す。幼児歌・練習曲等の課題曲の習得を目指す。
2. 発声法を学び、豊かな声で曲想を感じ取り歌うことを習得し、模範となることができる。
3. 教育現場で音楽の能力が発揮できるようにする。
4. 上記を習得するためのソルフェージュ・楽典の理解をする。

【教科書】

平松愛子：音楽ピアノ教本. 近畿大学九州短期大学, 2020

久世安俊：音楽声楽教本. 近畿大学九州短期大学, 2020

小林美実：こどものうた 200. チャイルド本社, 2015

板東貴余子：週に一度のおんがくワーク (上・下) ドレミ楽譜出版, 1991

【参考書等】 準備した楽譜・資料、適宜プリント配付

【成績評価】 ■定期試験 (実技試験 90%) □小テスト ■課題演奏 (10%) □その他

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名	
1	PF 基礎練習①	授業内容説明 PF=5指の運指 ピアノ教本 No.1・5・6	大戸井啓子 美馬 愛子	
2	PF 基礎練習②	PF=ピアノ教本 No.9・12・7 (バイエル 48 番)	〃	
3	幼児曲の奏法 (コード)と歌唱	PF=ピアノ教本 No.13・16・20・21・22 VO=発声と呼吸法、教科書より幼児曲を歌う	〃	
4	基礎知識を理解し、弾く・歌う	PF=ピアノ教本 No. 14・29・30・38・40・41	ピアノ指導は基本的に個々の進度により選曲 個々の進度により選曲とする	
5		8・23・25 (バイエル 66 番・97 番・78 番)		VO=教科書より幼児曲を歌う (ソルフェージュ舎)
6		進度により、上記以外の課題曲を弾く		〃
7	まとめと復習	前期復習	〃	
8		試験課題曲の奏法と歌唱	〃	

*PF=ピアノ、VO=声楽

【授業時間外の学習】 到達していない課題、不明点を認識し復習する。個々に次回行う課題曲を記録表にて明確にし、予習・復習を各2時間程度行う。学内設備を活用し、課題曲クリアのため技術向上の努力をする。

【履修条件・注意事項】 受講に当たって楽譜等の必需品を確認し、他人の物を借りないこと。配布資料・配布楽譜はファイルに入れ管理する。課題を時間内に行うこと。実技練習中は取り組み態度を厳しく指導する。質問は積極的に行うこと。

【オフィスアワー】 授業後の休み時間 (音楽室) ※事前に申し出ること。

【科目名】 幼児と音楽表現Ⅱ

【教員名】 園木 夏江、美馬 愛子

【教員の実務経験】 ■有（保育士としての実務経験のある教員（園木、美馬）がその経験を生かし、保育の音楽表現について演習を行う。）

□無

【授業方法】 □講義 ■演習 ■実習、実験、実技

【学科・学年・期】 保育学科・1年・後期

【必／選・単位数(時間数)】 必修・1単位（15時間）

【授業概要と目的】 「幼児と音楽表現Ⅰ」で習得したことを踏まえて、保育・教育現場で子どもの生活と遊びを豊かにするために必要なピアノ奏法の基礎技術を習得する。また、弾き歌いに必要となるピアノ奏法や表現法を身に付けることを目的とする。

【到達目標】 学生は以下のことをすることができる。

1. 音楽の楽しさを感じることができる。
2. 弾き歌いに必要となるピアノ奏法の基礎技術を段階的に身に付けることができる。
3. 保育・教育現場で音楽の能力が発揮できる。

【教科書】 平松愛子：音楽ピアノ教本。近畿大学九州短期大学，2020.

【参考書等】 準備した楽譜・資料、適宜プリント配付

【成績評価】 ■定期試験（実技試験：ピアノ 100%） □小テスト □課題演奏 □その他

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	課題曲演奏確認①	課題曲を演奏し、進度確認をする。	園木 夏江 美馬 愛子
2	課題曲演奏確認②		〃
3	課題曲演奏確認③	課題曲：27・29・30・31・32・33・34・36 必要な技術や知識を理解し、弾き歌いに必要となる鍵盤楽器の基礎を学ぶ。	〃
4	課題曲演奏確認④		〃
5	課題曲演奏確認⑤	課題曲：38・39・40・41・42・43・44 子どもの前で弾き歌いすることを想定し、子どもが歌いやすい演奏を考える。	〃
6	課題曲演奏確認⑥		〃
7	課題曲演奏確認⑦	課題曲：45・46・47 ピアノの演奏技術の向上を目指す。	〃
8	試験課題曲確認	試験課題曲の奏法や授業全体を振り返り、学んだことを確認する。	〃

【授業時間外の学習】 到達していない課題曲や次回行う課題曲を明確にし、予習及び復習は各2時間程度行うこと。学内設備を活用し、技術向上の努力をすること。

【履修条件・注意事項】 楽譜・記録表等の必需品を確認し、必ず持参して受講すること。主体的に実技練習に取り組み、質問は積極的に行い、課題を時間内に行うこと。

【オフィスアワー】 授業後又は放課後～17：15（音楽室）※事前に申し出ること

【科目名】乳児保育Ⅰ

【教員名】美馬 愛子

【教員の実務経験】■有（保育士としての実務経験のある教員がその経験を生かし、講義を行う。）
□無

【授業方法】■講義 □演習 □実習、実験、実技

【学科・学年・期】保育学科・1年・前期

【必／選・単位数(時間数)】必修・2単位（30時間）

【授業概要と目的】乳児保育は何故必要か、学生は乳児保育の意義・目的と歴史の変遷について理解する。また、多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解し、必要に応じて適宜話し合い活動等を取り入れ、実践的な理解の習得や主体的な態度の育成にもつなげていくことを目的とする。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. 乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割等について理解できる。
2. 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解できる。
3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解できる。
4. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解できる。

【教科書】志村聡子:はじめて学ぶ乳児保育. 同文書院, 2018.

【参考書等】適宜資料配付

【成績評価】■定期試験（70%） ■小テスト（10%） □課題レポート
■その他（振り返りシート 20%）

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	乳児保育はなぜ必要か	乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的現状と課題を考える。	美馬 愛子
2	乳児保育の現状と課題①	乳児保育の意義・目的と歴史の変遷を理解する。	〃
3	乳児保育の現状と課題②		〃
4	知っておきたい法律	乳児保育に関連する法律について理解する。	〃
5	乳児保育のポイント	保育所保育指針をもとに乳児保育におけるポイントを学ぶ。	〃
6	人生の基礎としての乳児期	「生理的早産」ポルトマンの考え方に学ぶ。	〃
7	乳児のことばの発達	ことばの発達の道筋を踏まえた保育士等による援助や関わりについて考える。	〃
8	乳児のからだの発達①	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮を考える。	〃
9	乳児のからだの発達②		〃
10	乳児保育における複数担任制	身近な人との絆を育む過程を踏まえた保育士等による援助や関わり、保育者同士の連携のあり方について考える。	〃
11	保護者との連携・協働	様々な背景を抱える保護者と保育者はどのように向き合うのか考える。	〃
12	乳児保育における安全管理①	乳児期特有の病気や薬の扱い、乳児を事件・事故から守る方法を理解する。	〃
13	乳児保育における安全管理②	保育の安全と事故の発生要因とその対策について考える。	〃
14	乳児保育における安全管理③	保育実践における事故防止のポイントについて考える。	〃

15	確認テスト・まとめ	授業を振り返り、学んだことを確認する。	〃
----	-----------	---------------------	---

【授業時間外の学習】 予習及び復習は、各2時間程度行うこと。配付資料はファイル等にまとめる。

【履修条件・注意事項】 主体的・積極的な授業への参加を心がけること。話し合い活動等に積極的に参加すること。

【オフィスアワー】 授業後の休み時間及び昼休み（1号館事務室前）

【科目名】保育実習Ⅰ（保育所）

【教員名】園木 夏江

【教員の実務経験】■有（保育士としての実務経験のある教員がその経験を生かし、実習に必要な指導及び助言を行う。）

□無

【授業方法】□講義 □演習 ■実習、実験、実技

【学科・学年・期】保育学科・1年・後期

【必／選・単位数(時間数)】必修・2単位（90時間）

【授業概要と目的】保育士資格を取得するための実習である。学生は保育実習の意義や目的を理解したうえで実習に臨み、保育所の役割や機能、子どもの理解等、専門職としての職業倫理を理解することを目標とする。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。
2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。
3. 既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。
4. 保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。
5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。

【教科書】

小櫃智子・守巧他：幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド。わかば社，2017。

厚生労働省：保育所保育指針。フレーベル館，2017。

内閣府・文部科学省・厚生労働省：幼保連携型認定こども園教育・保育要領。フレーベル館，2017。

【参考書等】小泉裕子：保育・教育実習日誌の書き方 改訂版。中央法規，2020。

【成績評価】□定期試験 □小テスト □課題レポート ■その他（施設評価 50% 学校評価 50%）

【授業計画】

1. 保育所の役割と機能
 - (1) 保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わり
 - (2) 保育所保育指針に基づく保育の展開
2. 子どもの理解
 - (1) 子どもの観察とその記録による理解
 - (2) 子どもの発達過程の理解
 - (3) 子どもへの援助や関わり
3. 保育内容・保育環境
 - (1) 保育の計画に基づく保育内容
 - (2) 子どもの発達過程に応じた保育内容
 - (3) 子どもの生活や遊びと保育環境
 - (4) 子どもの健康と安全
4. 保育の計画・観察・記録
 - (1) 全体的な計画と指導計画及び評価の理解
 - (2) 記録に基づく省察・自己評価
5. 専門職としての保育士の役割と職業倫理
 - (1) 保育士の業務内容
 - (2) 職員間の役割分担や連携・協働
 - (3) 保育士の役割と職業倫理

【授業時間外の学習】その日の実習での気づきや学び、反省等を実習日誌やノート等にまとめること。予習及び復習は、各2時間程度行うこと。

【履修条件・注意事項】主体的・積極的な実習への参加を心がけること。実習に相応しい服装と身だしなみを整えること。実習態度については、厳しく指導する。課題の提出期限を厳守すること。不測の事態等があった際には、担当保育者及び担当教員に連絡すること。

【オフィスアワー】方法と時間については実習前に連絡する。

【科目名】保育実習Ⅰ(施設)

【教員名】山地 貴子

【教員の実務経験】■有(保育士としての実務経験のある教員がその実務経験を生かし、実習に必要な指導や助言を行う。)

□無

【授業方法】□講義 □演習 ■実習、実験、実技

【学科・学年・期】保育学科・1年・後期

【必/選・単位数(時間数)】必修・2単位(90時間)

【授業概要と目的】既習の理論を基礎として施設の現場において生きた保育技術を学び、人間性豊かな保育士を目指す。学生が施設実習を通して児童、利用者等の個人差を理解し、その対応と技術を学び、記録としてまとめ、自己の課題を理解することを目的とする。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. 児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。
2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。
3. 既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保育者への支援について総合的に理解する。
4. 保育の計画・観察・記録及び自己評価について具体的に理解する。
5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。

【教科書】守巧・小櫃智子他:改訂版 施設実習パーフェクトガイド. わかば社, 2023.

【参考書等】適宜資料配付

【成績評価】□定期試験 □小テスト □課題レポート ■その他(施設評価50% 学校評価50%)

【授業計画】

1. 施設の役割と機能
 - (1) 施設における子どもの生活と保育士の援助や関わり
 - (2) 施設の役割と機能
2. 子どもの理解
 - (1) 子どもの観察とその記録
 - (2) 個々の状態に応じた援助や関わり
3. 施設における子どもの生活と環境
 - (1) 計画に基づく活動や援助
 - (2) 子どもの心身の状態に応じた生活と対応
 - (3) 子どもの活動と環境
 - (4) 健康管理、安全対策の理解
4. 計画と記録
 - (1) 支援計画の理解と活用
 - (2) 記録に基づく省察・自己評価
5. 専門職としての保育士の役割と倫理
 - (1) 保育士の業務内容
 - (2) 職員間の役割分担や連携
 - (3) 保育士の役割と職業倫理

【授業時間外の学習】その日の気付きや学びを実習日誌などにまとめること。予習及び復習(各2時間程度)を行うこと。

【履修条件・注意事項】実習に相応しい服装と身だしなみを整えること。実習態度については、厳しく指導する。提出物については、期限厳守すること。不測の事態等があった際には、担当保育者及び担当教員に連絡する。

【オフィスアワー】方法と時間については実習前に連絡する。

【科目名】保育実習事前事後指導Ⅰ(保育所)

【教員名】園木 夏江

【教員の実務経験】■有(保育士としての実務経験のある教員がその経験を生かし、保育実習に必要な演習を行う。)

□無

【授業方法】□講義 ■演習 ■実習、実験、実技

【学科・学年・期】保育学科・1年・後期

【必/選・単位数(時間数)】必修・2単位(30時間)

【授業概要と目的】保育実習にむけた事前・事後指導のための科目である。学生は保育実習の意義や目的、実習内容と課題の明確化、実習に際しての留意事項、実習の記録及び評価等を学び、より良い実習に繋げることを目的とする。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. 保育実習の意義・目的を理解する。
2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。
3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。
4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。
5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。

【教科書】小櫃智子・守巧他：幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド。わかば社，2017。

【参考書等】

小泉裕子：保育・教育実習日誌の書き方 改訂版。中央法規，2020。

厚生労働省：保育所保育指針。フレーベル館，2017。

内閣府、厚生労働省：幼保連携型認定こども園教育・保育要領。フレーベル館，2017。

【成績評価】□定期試験 □小テスト □課題レポート ■その他(事前課題50% 事後課題50%)

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	実習の目的及び概要	保育実習の目的や意義を理解し、実習の概要について学ぶ。	園木 夏江
2	実習の内容	保育実習における内容を理解し、保育士の専門性と職業倫理について具体的に学ぶ。	〃
3	実習の課題	実習内容を踏まえ、自らの実習課題(目標)を明確にする。	〃
4	実習生としての心構え	保育のマナーとコミュニケーション、実習に対する適切な態度や社会人としての常識、礼儀、行動の在り方について学ぶ。	〃
5	プライバシーの保護と守秘義務	実習施設におけるプライバシーの保護と守秘義務について考える。実習施設で得た個人情報や管理、SNS等の取扱いについて理解する。	〃
6	観察・記録・評価①	実習の計画、実践、観察、記録、評価等の内容について理解する。	〃
7	観察・記録・評価②		〃
8	観察・記録・評価③	実習日誌の書き方のポイントを学ぶ。	〃
9	実習事前準備	必要書類や物品、製作物などの準備を整える。	〃
10	実習の総括と自己評価	事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、自身の課題や新たな目標を明確にする。	〃
11	自己の実習課題の明確化	実習内容をまとめ自己の学び、保育に対する課題や認識を明確にする。	〃
12	実習事後の考察と反省①	実習内容を振り返り、資料作成を通して、学びを整理することで新たな気づきを得る。	〃
13	実習事後の考察と反省②		〃
14	実習発表会	実習内容を発表し、他者からの質疑や意見交換を通して、実習内容の省察や課題に気付く。	〃

15	実習発表会 課題の明確化	自己の学びや新たな課題、目標を明確にし、保育実習Ⅱへの見 通しを立てる。	〃
----	-----------------	---	---

【授業時間外の学習】 専門職を志す者として、適切な生活習慣、言葉遣い、態度を日常的に意識すること。また、配付資料はファイル等にまとめること。予習及び復習は、各2時間程度行うこと。

【履修条件・注意事項】 実習を見据え、自覚と責任感を持って真摯に授業に取り組むこと。課題の提出期限を厳守すること。

【オフィスアワー】 授業後の休み時間及び昼休み（1号館事務室前）

【科目名】保育実習事前事後指導Ⅰ(施設)

【教員名】山地 貴子

【教員の実務経験】■有(保育士としての実務経験がある教員がその経験を生かし、演習を行う。) □無

【授業方法】■講義 ■演習 □実習、実験、実技

【学科・学年・期】保育学科・1年・後期

【必/選・単位数(時間数)】必修・1単位(15時間)

【授業概要と目的】学生が施設実習の意義・内容・課題など実習の全体的な枠組みを理解し、実習に挑む心構えを作ると共に実習日誌の書き方等に関わる知識と技術を習得することを目的とする。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. 保育実習(施設)の意義・目的を理解する。
2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。
3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。
4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。
5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。

【教科書】守巧・小櫃智子他:改訂版 施設実習パーフェクトガイド.わかば社,2023.

【参考書等】適宜資料配付

【成績評価】□定期試験 □小テスト □課題レポート ■その他(事前課題50% 事後課題50%)

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	保育士の役割と職業倫理 保育実習の意義	オリエンテーション 児童福祉施設における保育士の役割について学び、職業倫理について知る。実習の意義や目的、概要を理解する。	山地 貴子
2	事前訪問及び実習目標について	事前訪問の目的や内容について理解する。実習に向けての目標を明確化し、設定する。	〃
3	施設の予備知識について	児童福祉施設の役割や機能について理解を深める。特に実習する児童福祉施設について深く学び、事前学習の学びを深める。	〃
4	実習日誌について	実習日誌の書き方について学ぶ。	〃
5	実習前確認	初日提出書類を整え、実習中の学びについて再確認し、準備を整える。	〃
6	実習事後の反省	実習内容をまとめ、自己の学び、保育に対する課題や目標を明確にする。	〃
7	自己の実習課題の明確化	実習内容を振り返り、資料作成を通して、学びを整理することで新たな気づきを得る。	〃
8	実習発表会の準備	実習内容をまとめ、発表に向けて意見交換を行い、課題を明確にする。	〃

【授業時間外の学習】実習に向けて、身だしなみや言葉遣い、態度などを日々意識して生活すること。予習及び復習は各2時間程度行うこと。

【履修条件・注意事項】課題については期日厳守で提出すること。講義に対する取り組み姿勢については厳しく指導する。

【オフィスアワー】授業後の休憩時間及び昼休み時間(1号館事務室前)

【科目名】教育方法論

【教員名】園木 夏江

【教員の實務経験】 ■有（保育士としての實務経験のある教員がその経験を生かし、講義を行う。）
□無

【授業方法】 ■講義 □演習 □実習、実験、実技

【学科・学年・期】保育学科・1年・前期

【必／選・単位数(時間数)】必修・2単位（30時間）

【授業概要と目的】学生は、幼児教育・保育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領、保育所保育指針等に示された領域のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付けていくことを目的とする。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. 幼児教育・保育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解することができる。
2. 幼児教育・保育における評価の考え方を理解することができる。
3. 幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解することができる。
4. 各領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用方法を理解し、保育の構想に活用することができる。

【教科書】垂見直樹・池田竜介:幼児教育・保育のための教育方法論. ミネルヴァ書房, 2021.

【参考書等】

文部科学省:幼稚園教育要領. フレーベル館, 2017.

厚生労働省:保育所保育指針. フレーベル館, 2017.

【成績評価】 ■定期試験（80%） □小テスト ■課題レポート（20%） □その他

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	教育方法の基礎理論	フレーベルの思想と現代の教育方法を学ぶ。	園木 夏江
2	日本の幼児教育方法の歴史	教育の歴史に関する基礎知識を学び、これまでの教育及び学校の変遷を理解する。	〃
3	環境を通して行う教育	幼児期にふさわしい教育の方法について「環境をとおしての教育」「遊びをとおしての指導」を中心に考える。	〃
4	子どもの育ちと物的環境	幼児の豊かな育ちとなる物的環境について考える。	〃
5	子どもの育ちと人的環境	幼児の豊かな育ちとなる人的環境について考える。	〃
6	子どもの育ちと社会的環境	幼児の豊かな育ちとなる社会的環境について考える。	〃
7	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と教育課程	幼児教育において育みたい資質・能力について学ぶ。	〃
8	「主体的・対話的で深い学び」と教育方法の関係	幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定し保育の方法を考える。	〃
9	幼児理解に基づいた評価 ドキュメンテーション作成	保育において、評価のためのよりよい省察と記録のあり方について理解する。	〃
10	ドキュメンテーション発表 幼児教育・保育における遊び	「遊び=学び」遊びと学びとのつながりについて理解する。	〃
11	幼児教育・保育における計画と評価	幼児の主体的生活を基盤に意図的・計画的な保育を実践する方法と、そこにおける保育者のさまざまな役割について学ぶ。	〃

12	幼児教育・保育における情報機器（ICT）の活用	ICT活用の理解とその意義について理解する。	〃
13	情報活用能力と幼児教育・保育	情報社会の進展に主体的に対応できる子どもを育むための指導のあり方について考える。	〃
14	幼児教育・保育のこれから	これからの時代の「保育の質」を高めていくために何をしたらよいかについて考える。	〃
15	小テスト・まとめ	授業を振り返り、学んだことを確認する。	〃

【授業時間外の学習】予習及び復習は、各2時間程度行うこと。配付資料はファイル等にまとめること。

【履修条件・注意事項】主体的・積極的な授業への参加を心がけること。話し合い活動等に積極的に参加すること。

【オフィスアワー】授業後の休み時間及び昼休み（1号館事務室前）

【科目名】教職概論

【教員名】細田 章

【教員の実務経験】 有（高等学校教員の実務経験のある教員が講義を行う）
無

【授業方法】 講義 演習 実習、実験、実技

【学科・学年・期】保育学科・1年・後期

【必／選・単位数(時間数)】必修・2単位（30時間）

【授業概要と目的】幼稚園教師・保育者を目指すにあたって、教師・保育者に求められる資質、態度、倫理と、教育が社会に対して果たす役割について学習する。また、教育の歴史や教師に関わる法律についても学習する。グループでの討議を通して、知識だけでなく深く考えることを中心に行う。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. 教師・保育者が社会から求められていること、あるべき姿を根拠に基づいて論ずることができ
2. 遊びを通して子供が何を学ぶか理解でき、それをどのように支援するかが論じられる。
3. カウンセリングマインドが理解できる。
4. 教師をめぐる法律について、それぞれの法律の趣旨が理解できる。
5. 教員研修の意義が理解できる。
6. 自身が教師・保育者としてどうなりたいのか、そのためにすべきことは何かを考え、キャリアプランを立てることができる。

【教科書】

古橋和夫：〈三訂〉教職入門－未来の教師に向けて。萌文書林。2023。

配布資料

【参考書等】幼稚園教育要領。文部科学省。2017。

【成績評価】 定期試験（80%） 小テスト 課題レポート（20%） その他

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	教育とは何か	教育とは何か「教」と「育」それぞれの意味を考え、その中で教師とは何かを考える	細田 章
2	教師の仕事、教師の生活	各自の教師・保育者を目指す動機と、教師・保育者に求められるものとの比較	〃
3	教育と教師の歴史	日本における教育と教師の歴史を学習し、権利と義務、教育の影響力について考える	〃
4	子どもの社会的発達	子どもの社会的発達とその変化を学習し、現在の問題点と改善について考える	〃
5	子どもの生活と援助①	幼稚園・保育所における、子供と教師・保育者の動きとその目的について学修する	〃
6	子どもの生活と援助②	子どもにとっての遊びの意味と指導計画について学修する	〃
7	小学校での学習へどう繋ぐか	小学校での学習形態を理解し、幼稚園・保育所はそこにどのように繋げるのがよいかを考える	〃
8	学校職員と関係機関	学校の教職員の種類と役割及び学習に関連する施設、学校関係機関について学習し、教育機関と社会に置ける教育の環境を考える	〃
9	カウンセリングマインド	教師・保育者の資質として求められるカウンセリングマインドとはどのようなものか学習する	〃
10	特別な配慮を要する子どもへの対応	問題行動や特別な支援が必要な子ども、気にかかる子どもへの対応について考える	〃
11	教師の新たな役割	社会の国際化、情報化に伴う、教師に求められる新たな役割とは何かを知る	〃
12	教師に関わる法律	教師に関わる法律	〃

13	教育改革と教師 教職の専門性と研修	教育改革とこれからの教師に求められるもの 教員としての採用と教師の質を高めるための研修 の必要性について	〃
14	キャリアプラン	改めて教師・保育者を目指す動機を考え、自身の目 指す教師像・保育者像を明確にし、そこへつながる キャリアプランを考える	〃
15	まとめ	これまでの振り返りとまとめ	〃

【授業時間外の学習】 子どもの発達や社会貢献における教師の役割について常に考え、自身の教育観の形成に努めること。教育にまつわるニュースに関心を持ち、それらに対する自身の考えを整理する習慣をつけること。十分な理解を得るために、予習及び復習には各2時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】 グループ討議では積極的に発言し、ロールプレイングではなり切って演じること。他の学生の学習の妨害になる行為は厳禁。提出物の期限は厳守すること。

【オフィスアワー】 火曜日 16:30～17:30（1号館事務室前）

【科目名】 幼児の観察と理解 I

【教員名】 友成 健悟

【教員の実務経験】 有（幼稚園教諭・保育教諭としての実務経験のある教員（友成）がその経験を生かし、保育・教育現場において必要な演習を行う。）

無

【授業方法】 講義 演習 実習、実験、実技

【学科・学年・期】 保育学科・1年・前期

【必／選・単位数(時間数)】 必修・2単位（30時間）

【授業概要と目的】 学生が保育園や認定こども園等での見学や観察、子どもとの関わりを通して「専門職になる」という自覚や責任感を持つことを目的とする。

【到達目標】 学生は以下のことをすることができる。

1. 子どもの様子や保育者と子どもとの関わりを観察し、発見したことをまとめることができる。
2. 様々な角度から子どもを捉えるために、これから自らが取り組むべき課題を明確にし、考えることができる。
3. 自らの言葉遣いや行動、内面等を意識することができる。

【教科書】 なし

【参考書等】

厚生労働省：保育所保育指針。フレーベル館,2017.

内閣府、厚生労働省：幼保連携型認定こども園教育・保育要領。フレーベル館, 2017.

適宜資料配布

【成績評価】 定期試験 小テスト 課題レポート（40%） 発表（30%）

その他（提出物 30%）

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	オリエンテーション 子どもから考える (DVD 視聴)	保育・教育の現場を見学する上での留意点や子どもの観察に必要な視点について知る。	友成 健悟
2	よりよい保育をつくり出すためには？①	子どもを肯定的に見るために大切なことは何か考える。	〃
3	よりよい保育をつくり出すためには？②		〃
4	保育園・認定こども園・幼稚園のそれぞれの特徴について	保育園や認定こども園、幼稚園での園生活の実態を知る。	〃
5	認定こども園での見学、観察①	認定こども園の見学や観察を通して、子どもの様子や保育者との関わりを観察する。	〃
6	認定こども園での見学、観察②	教育及び保育の基本	〃
7	認定こども園での見学、観察③	教育及び保育の目標	〃
8	認定こども園での見学、観察④	幼児教育を行う施設として共有すべき事項	〃
9	見学、観察の振り返り・学び	認定こども園の見学や観察を通して、学んだことや気づきを振り返り、共有する。	〃
10	認定こども園での見学、観察⑤	幼児教育を行う施設として配慮すべき事項	〃
11	認定こども園での見学、観察⑥	保育の内容	〃
12	認定こども園での見学、観察⑦	健康及び安全	〃
13	認定こども園での見学、観察⑧	子育て支援	〃
14	見学、観察の振り返り・学び	認定こども園の見学や観察を通して、学んだことや気づきを振り返り、共有する。	〃

15	発表・まとめ	見学や観察で学んだことなどをパワーポイントにまとめ、発表する。	〃
----	--------	---------------------------------	---

【授業時間外の学習】 幼保連携型認定こども園教育・保育要領を読むこと。予習及び復習は、各2時間程度行うこと。

【履修条件・注意事項】 授業に取り組む姿勢、見学の際の身だしなみ等は厳しく指導する。

【オフィスアワー】 授業後の休み時間及び昼休み（1号館事務室前）

【科目名】音楽表現（指導法）

【教員名】高瀬 久美子

【教員の実務経験】■有（保育園、幼稚園でリトミック指導、音楽あそび指導の経験を有する教員が演習を行う。）

□無

【授業方法】■講義 ■演習 ■実習、実験、実技

【学科・学年・期】保育学科・1年・前期

【必／選・単位数(時間数)】必修・1単位（15時間）

【授業概要と目的】学生が、個性を生かした自己表現、身体活動、子どもの発達段階や年齢に応じた手あそび、歌あそびを理解し、保育者に必要な柔軟性にとんだ発想力、表現力を養うことを目的とする。また既存の曲や即興音楽、小物楽器を使って表現会（保育現場）で実践できるアンサンブルを発表する。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. 音楽的基礎知識を理解することができる。
2. 童謡やわらべうた、あそび歌を習得し、音楽表現できる。
3. 子どもの発達段階や年齢に合わせて曲を応用展開し、たくさんの引き出しをもつことができる。
4. 子どもの心を惹きつける小道具を使って楽しく音楽表現できる。
5. リズムアンサンブルができる。

【教科書】なし

【参考書等】適宜資料配付

【成績評価】□定期試験 □小テスト ■課題レポート（30%） ■その他（実技40% 課題提出30%）

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	自己表現	自分らしく個性を生かした自己表現と他者とのコミュニケーション能力を高める。	高瀬 久美子
2	身体表現	音楽の基礎知識。基本的な動きとリズム。イメージサウンドに合わせた動きの実践。	〃
3	手あそび 歌あそび	季節の歌、子どもの年齢に合った手あそび、歌あそび。音の強弱や高低、緩急をつける表現によって子どもを惹きつける表現の工夫をする。	〃
4			〃
5	わらべうた	“うた”を伴う伝承あそび	〃
6	ゲームあそび 小道具を使って	ペープサート、パネルシアター、バンダナ、布、絵本等使用	〃
7	リズムあそび アンサンブル	リズム模倣、エコーソング、輪唱、アンサンブル	〃
8	これまでの まとめ	グループ発表、振り返り、今後の課題と取り組み	〃

【授業時間外の学習】当該科目の重要性を十分理解し、講義内容を自分なりにまとめること。普段から保育・教育に関する音楽表現について意識しながら生活すること。予習及び復習は各2時間程度行うこと。

【履修条件・注意事項】講義中は内容を理解することに努め、疑問点があれば積極的に質問すること。私語や受講態度等講義中の姿勢については厳しく指導する。

【科目名】劇あそび（指導法）

【教員名】友成 健悟

【教員の實務経験】■有（保育士としての實務経験のある教員がその経験を生かし、演習を行う。）
□無

【授業方法】□講義 ■演習 ■実習、実験、実技

【学科・学年・期】保育学科・1年・後期

【必／選・単位数(時間数)】必修・1単位（15時間）

【授業概要と目的】学生は、創造性を豊かにするねらいのもと、いろいろな表現活動やオペレッタの実践を通して感性を磨き、イメージを豊かにさまざまな表現方法を身につけることを目的とする。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. 子どものもつ豊かな感性や表現する力を引き出すための指導方法や指導力・援助方法を体得することを目標とし、劇あそび・オペレッタによる表現の特質を知り、イメージと動きの関わりを体得する。
2. 音楽・造形・身体活動を総合したオペレッタを制作し、発表会（Tomorrow Land）を行う。

【教科書】なし

【参考書等】適宜資料配付

【成績評価】□定期試験 □小テスト ■課題レポート（20%） ■その他（発表40% 準備40%）

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	表現活動について	劇あそびやオペレッタによる表現の特質を知る。 保育士劇の映像を視聴する。	友成 健悟
2	0～5歳児の劇あそび・オペレッタ	0～5歳児の劇あそびやオペレッタについて、保育園や幼稚園、認定こども園での発表会の様子、保育者の動き等を観ながら（映像視聴）、指導方法や援助方法を学ぶ。	〃
3	自己表現力の高め方 動きのパターン	様々な物や人物などの動きのパターンについて実際に体験したり、グループでテーマを決め、なりきり表現遊びを考え実践したり様々な表現方法を身につけていく。	〃
4	幼児の劇遊びとして取り入れたい絵本選び	自らが考える幼児と取り組みたい劇遊びを考えた上で、絵本を選ぶ。幼児の自由な表現をイメージしながら選んだポイントを発表する。	〃
5	発表会に向けての取り組み（2つ決める）	前回発表した絵本の中で劇として実践したいものを討議する。 ～自分たちに何ができるのか、どのようなオペレッタにするのか話し合う～	〃
6	発表会リハーサル	舞台にて、部分練習、通しの練習を行う。	〃
7	発表会準備	会場準備を行い、当日の役割について最終確認を行う。	〃
8	発表会に参加する	実践発表会でグループ内、近隣の保育園・認定こども園の子どもたちにオペレッタを披露する。	〃

【授業時間外の学習】グループで相談し、作品を期日までに完成させる。予習及び復習は、各2時間程度行うこと。

【履修条件・注意事項】オペレッタ制作に必要な材料は学校で用意するため、期日までに使用品・準備物を報告する。

【オフィスアワー】授業後の休み時間及び昼休み（1号館事務室前）

【科目名】まなび学 I

【教員名】山地 貴子、小谷 盛子、藤原 範子

【教員の実務経験】 有

■無（保育士資格を有する教員（山地）、実務経験のある教員（小谷）、感染管理認定看護師資格を有する講師（藤原）がその経験を生かし、保育現場に必要な演習を行う。）

【授業方法】 ■講義 ■演習 実習、実験、実技

【学科・学年・期】保育学科・1年・前期

【必／選・単位数(時間数)】必修・2単位（30時間）

【授業概要と目的】学生は、保育における感染症対策及び危機管理・災害対策について、具体的に理解する。また、児童福祉施設での体験、発達障がいや高齢者の疑似体験等を通して、保育士として役立つ具体的な知識を得ることを目的とする。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. 学生生活や保育現場で役立つ具体的な知識を得る。
2. 保育における危機管理・感染症対策について具体的に理解する。
3. 児童福祉施設での保育士の仕事体験を通して、保育士の職務内容を理解する。

【教科書】なし

【参考書等】適宜資料配付

【成績評価】 定期試験 小テスト 課題レポート ■その他（提出物 100%）

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	学科学生との交流	学科学生間でコミュニケーションを図り、同級生・上級生との関係づくりを促進する。	山地 貴子
2	危機管理	保育士としての危機管理等についてグループ討議を行う。	〃
3	礼儀と感謝	専門職を学ぶ者としての礼儀や感謝、言葉遣いなどのマナーについて学ぶ。	小谷 盛子
4	ICT の活用	保育内容に活用できる ICT について知り、実践する。	山地 貴子
5	運動あそびの理解	子ども達が丈夫な身体をつくるための必要事項を理解し、各年齢に応じた運動遊びについて考える。	〃
6	運動あそびの向上	運動遊びの実技を通して、各年齢に応じた実践的な保育技術を習得する。	〃
7	感染症予防	乳幼児の感染症について学び、乳幼児に関わる際の感染予防対策について理解する。	藤原 範子
8	観察	児童福祉施設での活動や子どもの実態や、状況に応じた関わりを観察する。	山地 貴子
9	観察と参加	保育士の援助方法を踏まえて主体的に保育に参加し、保育のやりがいを感じてもらう。	〃
10	職務内容の理解	様々な福祉施設で活躍する卒業生から各施設の概要や取り組み等を聞き、質疑応答などを通して職務内容を理解する。	〃
11	職業意識の向上	様々な福祉施設での職務内容を理解し、職業意識を向上し、自己のキャリアプランについて考える。	〃
12	VR 体験①	発達障がいの VR 体験を行い、発達障がい児の関わり方を考える。	〃
13	VR 体験②	高齢者（認知症）の VR 体験を行い、高齢者支援について考える。	〃
14	実習の心構え	保育実習Ⅱのポスター発表に参加し、質疑応答を通して自らの実習に備える。	〃
15	自己課題の明確化	保育実習Ⅱのポスター発表での質疑応答を振り返り、自己課題を明確にする。	〃

【授業時間外の学習】配付資料はファイルにまとめておくこと。予習及び復習は各2時間程度行うこと。

【履修条件・注意事項】課題レポート他の提出期限は守ること。講義中は講義内容を理解することに注意を払うこと。疑問点があれば積極的に質問をすること。授業に取り組む姿勢については厳しく指導する。

【オフィスアワー】授業終了後の休憩時間（山地・1号館事務室）

【科目名】まなび学I

【教員名】美馬 愛子、警察署員、施設職員

【教員の実務経験】有

■無(保育士としての実務経験のある教員(美馬愛子)と実務経験のある警察署員、施設職員がその経験を生かし、保育現場に必要な演習を行う。)

【授業方法】講義 ■演習 実習、実験、実技

【学科・学年・期】保育学科・1年・後期

【必/選・単位数(時間数)】必修・2単位(30時間)

【授業概要と目的】学生は、防災や救急処置、防犯対策等について、具体的に理解する。また教育及び保育に携わる使命感や責任感、探求心を持ち、保育士として必要な知識や技術を習得することを目的とする。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. 保育における防災(風、地震災害等)や救急措置(心肺蘇生法、AED等)、防犯対策等について習得することができる。
2. 保育士として必要な基礎的な知識や技術を習得することができる。

【教科書】なし

【参考書等】適宜資料配付

【成績評価】定期試験 小テスト ■課題レポート(80%) ■その他(発表20%)

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	子育て支援とは	子育て支援とは何か、保育士としての支援内容を理解する。	美馬 愛子
2	子育て支援の実際	子どもやその保護者と触れ合い、様々な角度から子育て支援について考える。	〃
3	防災センターにて体験	様々な災害を体験し、保育における安全対策・危機管理等について具体的に学ぶ。	〃
4	安全管理の基本	救急処置(心肺蘇生法、AED等)の基礎的な対処法を具体的に学び習得する。	〃
5	防犯対策	保育現場における防犯対策について具体的に学ぶ。また、護身術を通して、身の危険を回避するための知識を学ぶ。	警察署員
6	教育及び保育の基本	幼稚園やこども園の教育及び保育の基本、目標を理解する。	美馬 愛子
7	子どもを理解する視点	幼稚園やこども園の概要、教師の様々な役割等について、子どもの活動場面の事例から子どもを理解する上での基本的な考え方を学ぶ。	〃
8	環境問題・社会問題①	子どもを取り巻く様々な社会問題や環境問題等について興味を持ち、探求することで自らの視野を広げる。	〃
9	環境問題・社会問題②	研究内容を共有し、意見交換を行うことで内容を整理し、新たな気付きを得る。	〃
10	環境問題・社会問題③	研究内容を発表し、今後の課題や目標を明確にする。	〃
11	保育実践における環境構成	子どもが興味を持てるような安全で安心できる環境の構成を考える。	施設職員
12	保育実践における子どもへの援助方法	保育実践を通して、自己の技術や表現力、子どもへの円滑な支援等を振り返り課題を明確にする。	〃
13	特別な支援を必要とする子どもの援助	特別な支援を必要とする子どもの状況や支援について考える。	美馬 愛子
14	専門職としての保育士の役割と職業倫理	保育士の業務内容・職員間の役割分担や連携、職業倫理について具体的に理解する。	〃
15	まとめ	保育士として必要な知識や技術等、これまでの学びを振り返る。	〃

【授業時間外の学習】予習及び復習は各2時間程度行うこと。配付資料はファイル等にまとめること。

【履修条件・注意事項】主体的・積極的な授業への参加を心がけること。課題の提出期日を厳守すること。見学の際のマナーや身だしなみについては厳しく指導する。

【オフィスアワー】授業後の休み時間及び昼休み(1号館事務室前)

